

第5回分科会活動報告

日 時：2011年12月8日（木）

場 所：芝浦工業大学 豊洲キャンパス

出席者：32名（内訳：正会員14名、賛助会員他：18名）

記録者：日本大学理工学部 恵藤 浩朗（第一分科会運営委員長）

テーマ：社会人基礎力、2011年度の振り返り

1. 配布資料

- (1) 2011年度第5回第一分科会プログラム
- (2) 2011年度第5回第一分科会出欠名簿
- (3) 報告資料「海外セミナーシリーズ フィンランド教育事情視察」
- (4) 講演資料「PBLで学生は変わる！社会が変わる！」
- (5) 体験談報告資料「大学の学びを社会で生かす」
- (6) 体験談報告資料「社会人体験談」
- (7) 懇親会会場のご案内

2. 研究活動内容

- (1) 全体会 13:00～13:15

- a. 開会の挨拶
- b. 会場校ご挨拶

芝浦工業大学 学術情報センター事務部 基幹業務システム課 課長 祖父江氏

- c. CS 件役員会連絡
- d. 事務局より連絡

- (2) 海外セミナー報告 13:15～13:30

テーマ：「フィンランド教育事情視察」

講演者：日本女子大学 人間社会学部 助教 山内氏

日本女子大 山内氏より今年の9月に開催された海外セミナーについてのご報告を頂きました。本当は小生も参加したかったのですが、日程的に参加できませんでした。でも今回の分科会で山内氏から、日本とフィンランドの教育環境の違い、各校の取組みや図書館などの施設について、フィンランドの情景と共に、お話しいただいたので本当に良かったです。



- (3) ご講演 13:30～14:10

テーマ：「富士通における社会人基礎力の活用事例」

講演者：富士通(株) 人材採用センター センター長 豊田氏

豊田氏には採用時および入社後2年間の若手人材を対象に社会人基礎力を活用した「ATTチャレンジ」という人材育成プログラムについてご紹介いただきました。

まず富士通では採用施策として2009年から社会人基礎力を面接の評価の一部としてエント

リーシートの設定問に活用されました。そして 2010 年には面接時の評価項目、2011 年には「求める人材像」に明記されるほど、段階的に社会人基礎力を活用する幅を広げられました。ここで明記された富士通の「求める人材像」の 3 項目は、①好奇心をもって行動できる、②継続して社会人基礎力を伸ばすことができる、③富士通に共感できる、といったものでした。この①と②の項目は活躍するための観点で評価されるもので、好奇心からスタートし、調べる、考える、協働するといった行動から成果を創出する上での指標となります。そしてこの「行動」についての特性を評価する際に社会人基礎力が活用されていると言ったお話でした。また社会人基礎力は若手人材にも活用され、PDCA の習慣化や業務遂行力の基礎固めとしても利用されており、今ではこの社会人基礎力の用語が共通言語として使われるまでに至っているとのお話を伺いました。



(4) 事例紹介 14:10~14:40

テーマ：「ICT を活用した社会人基礎力見える化 実証実験プロジェクトの報告」

講演者：富士通(株) 文教ソリューション事業本部 第二ソリューション統括部

統括部長 中尾氏

豊田氏の講演で学んだ「社会人基礎力」に関する事例紹介として中尾様と滝沢様には、首都大学東京 林氏と進められている実証実験の報告と育成ツールのデモンストレーションを実施していただきました。実証実験で実施されている講義は、企業が求める人材を大学で育てる社会人基礎力のレベルアップを図る講義だと伺いました。そしてその講義用にカスタマイズされ利用されている SNS のデモを見せていただきました。またシステムの説明時に、計画時のガイドがとても親切で使いやすいような印象を受けました。この他に SNS 上で受講者の社会人基礎力が高まると、メタファーの樹木が育ち、樹木を通して成長を確認できる仕組みがとても面白いと感じました。



(5) 社会人（入社後 2~3 年目）の体験談 14:50~16:20

テーマ：「大学の学びを社会で生かす」

- a. 富士通(株) 水野氏
- b. (株)内田洋行 釜谷氏
- c. 共立女子大学 熊倉氏
- d. 東武トラベル 森田氏
- e. (株)総合キャリアオプション 笹田氏

今回の分科会は盛り沢山で、入社 2~3 年目の 5 名の方々に、実際に大学時代に体験されたことが、社会に出た今、どんな所に生きているのか、また大学での学びに期待することなどをご発表いただきました。皆様、大学時代に大きな経



験を積み重ね、それが現在の考え方や自己形成に役立っているといった話を伺いましたが、それは必ずしも大学側が科目等で準備したものばかりではありませんでした。講演者の皆様のお話は、実体験に基づいているため大変メッセージ性が強く、また壁を乗り越えてきた自信が垣間見られるお話であり、本当に興味深く聴かせていただきました。

(6) 意見交換会 16:20~17:25

ファシリテータ：恵藤

体験談をお話しいただいた 5 名の方にパネラーとして教室の前に座っていただき、パネルディスカッションの形式で意見交換会を実施致しました。「社会人基礎力」をテーマとしてとして討議を行いました。皆様の活発な発言もあり、大学は何をすべきか、といったことをもう 30 分延長して話したかったといったところで時間切れになってしまいました。それにしても本当に活発なディスカッション、大変有意義だったと思います。

(7) 2011 年度活動の振り返り 17:25~17:30

テーマ：「2011 年度分科会活動報告」

講演者：日本大学 理工学部 助教 恵藤

本年度の第 1~4 回の分科会活動について簡単にご報告させていただきました。皆様から感想やご意見、来年度に向けて期待することなどを伺いたいと考えておりましたが、振り返りの時間を十分に取れませんでした。分科会の 5 日後に会員の皆様に宛て、アンケートを送信させていただくとアナウンスし、2011 年度の活動報告を終了しました。

(8) 懇親会 18:00~

3. まとめ

分科会終了後、セミナー報告をされた山内氏とお話しする機会があり「教育環境に置いて日本がフィンランドのような環境を整えられていない理由はどこにあると思われますか？」と伺ってみると、山内氏は「日本はまだまだ初等教育でのフォローが充実できてないことが原因」と答えられました。確かに日本の初等教育のフォローは充実していないと思います。そういった所へ国や我々が力を注ぐことで、将来的に大学としても助かる所が多いのではと思いました。また分科会についてですが、第一分科会では合同研修会に続き「社会人基礎力」をテーマに議論したので、参加者の皆様は社会人基礎力がどういうものかある程度感覚的に捉えられるようになったかと思います。また社会人基礎力について「基礎」はベーシックではなくエッセンシャル（不可欠）の意味で「社会人基礎力」という言葉では勘違されやすいといった豊田氏の言葉がとても印象的でした。首都大学東京で実施されている実証実験については、是非 1 年間を通した結果を伺いたいと思いました。そして今年度の最後の取組みとなる「入社後 2~3 年目の方の体験談」および意見交換会では、時間が足りないほど白熱した議論を交わすことができ、今回も本当に内容の濃い充実した分科会を実施できたのではないかと思います。最後に今年一年間、分科会にご参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。今年度 4 月より小生が委員長を仰せつかり、緊張の連続でしたが、皆様に支えて頂くことで何とか乗り切ることができました。これも偏に参加者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

以上